

阿蘇草原保全活動センター

茅の利用

かつては茅葺の屋根をもつ伝統的な家屋が阿蘇地域にはありました。阿蘇の一部の地元民は今もなお茅葺屋根に使用する毎年すすきの栽培を続けています。阿蘇カルデラ全域に広がる草原は寒い気候の夏や秋、雪の少ない冬に繁茂するすすきで覆われます。阿蘇は寿命の長い耐久性に優れたとびきり高品質の茅を産することで知られており、熊本県で最初の重要文化財であり、熱い信仰を集める青井阿蘇神社の神殿に使用されることにもなりました。青井阿蘇神社は国宝にも指定されこの名誉を受けた日本最南端の建物です。

現在、茅葺屋根の数が減少した結果、阿蘇はその良質な茅を利用して、金沢から京都まで日本全国から寄せられる、多くの重要な仏閣、神社、文化遺産などの修理に使用するための茅の高い需要にえています。すすきの産業への利用は阿蘇に経済利益をもたらし、草原の特定地域に別の持続可能な管理方法を増やしつつあります。